

美濃陶磁歴史館だより
連続コラム うちんたあのお宝、なんやね？

第32回 どうする貞徳

妻木父子の決断①

妻木伝兵衛貞徳は、天文13(1544)年に明智広忠(明智光秀の伯父)のおそらく三男として、水野信元の姪(徳川家康の従姉)を母に生まれました。父広忠は斎藤道三、次いで織田信長に仕えており、信長が家臣の二・三男を馬廻衆として組織化していく中で貞徳も取り立てられて一家を興すことになりました。貞徳は明智家の庶家として、祖父頼安の例にならい「妻木」を名字としました。

天正10(1582)年6月、本能寺の変が起こります。貞徳の動向は不明瞭ですが、他の馬廻衆とともに京都内に宿泊していましたはずです。光秀の従弟、かつて明智一族の長老広忠の息子ですから、明智軍によって討たれる心配はなかったと思われます。おそらく変の直後には明智・妻木一族の本領である妻木郷に戻り、東美濃地方を押さえる役割を担つたのではないでしょう

か。結果として、山崎の戦いから坂本城の落城に至る一連の戦いには直接的な関与がなかったため、戦後に謀反の責任を問われる事もなかったのでしょう。その後の森長可による東美濃平定戦では、東美濃諸将の多くが反抗する中で、戦わずに家臣となる道を選びます。天正11(1583)年には領地の大幅な増加も受け、貞徳は森家の重臣となりました。

天正12(1584)年に勃発した小牧・長久手の戦いでは、羽柴秀吉に味方した森長可とともに徳川・織田連合軍と戦いました。長男の頼忠を森家本軍に配し、自身は内津峠に布陣しました。この内津峠付近でも合戦があり、内津妙見宮の社殿が焼失しています。これはおそらく森軍が大敗した羽黒ハ幡林の戦いの時のことでしょう。続く長久手の戦いでも森家は大敗、森長可是討死してしまいます。

か。結果として、山崎の戦いから坂本城の落城に至る一連の戦いには直接的な関与がなかったため、戦後に謀反の責任を問われる事もなかったのでしょう。その後の森長可による東美濃平定戦では、東美濃諸将の多くが反抗する中で、戦わずに家臣となる道を選びます。天正11(1583)年には領地の大幅な増加も受け、貞徳は森家の重臣となりました。

天正12(1584)年に勃発した小牧・長久手の戦いでは、羽柴秀吉に味方した森長可とともに徳川・織田連合軍と戦いました。長男の頼忠を森家本軍に配し、自身は内津峠に布陣しました。この内津峠付近でも合戦があり、内津妙見宮の社殿が焼失しています。これはおそらく森軍が大敗した羽黒ハ幡林の戦いの時のことでしょう。続く長久手の戦いでも森家は大敗、森長可是討死してしまいます。



妻木伝入 (貞徳) 肖像画
崇禪寺蔵 土岐市指定文化財

イベントの
ご案内



美濃陶磁歴史館 ☎55-1245